
2026年3月期
第3四半期決算説明会
(2025年4月～12月)



副社長 兼 CFO 齊藤 雅也

0 1 : 2026年3月期第3四半期 実績

0 2 : 2026年3月期 業績予想

0 3 : Appendix

2026年3月期
第3四半期決算実績
(2025年4月～12月)



全地域で増収。特にアジア・欧州が牽引し、2桁大幅増収 原価率の上昇に加え、販管費が増加したものの、営業利益は増益に 営業外収益の増加により経常利益以下は大幅増益に

売上高:253,071百万円 対前12.0%増、計画を上回る進捗

- 日本:サプリメントの「ロートV5」、新製品が好調なリップクリーム、ヘアケアの「Gyutto」や「肌ラボ」、目薬等が好調に推移
子会社のロートニッテン(株)や天藤製薬(株)が増収に寄与
- アジア:ベトナム、インドネシアなどの東南アジアが引き続き好調に推移
輸入ライセンスを取得できた事により生産可能となったミャンマーが増収に貢献
ユーヤンサン・インターナショナル社(EYS)が連結効果で売上に寄与
- アメリカ:医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス・ラボラトリーズ社(ハイドロックス社)が引き続き好調に推移
ブラジルの連結子会社も増収に貢献
- ヨーロッパ:ポーランドのダクス・コスメティクス社(DAX社)が好調に推移。目薬も順調に推移
モノ社が連結効果で売上に寄与

営業利益:33,575百万円 対前5.1%増、計画を上回る進捗。EBITDAマージンは18.3%

- アジアが大幅な増益

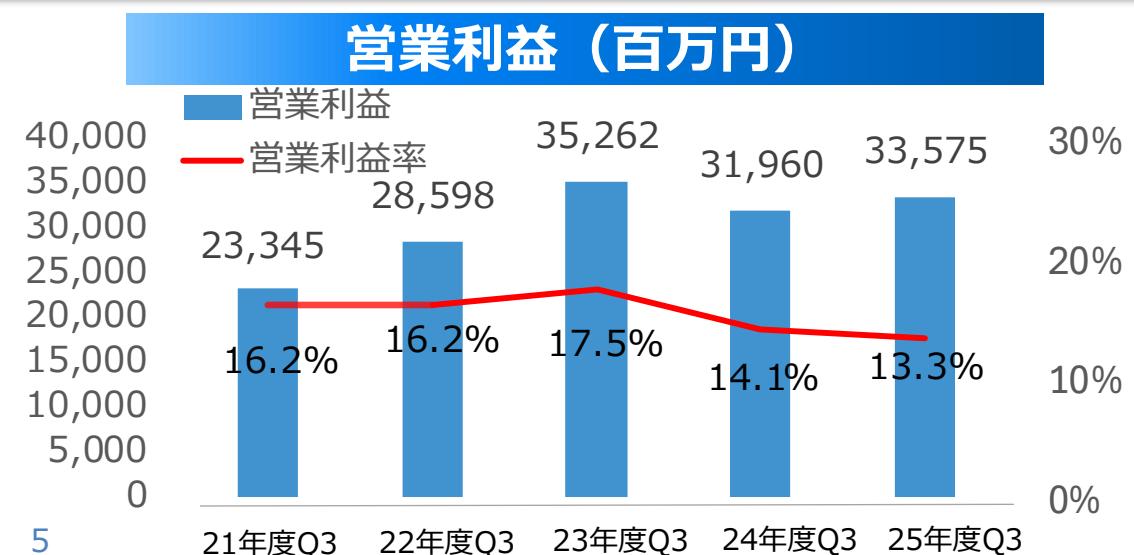
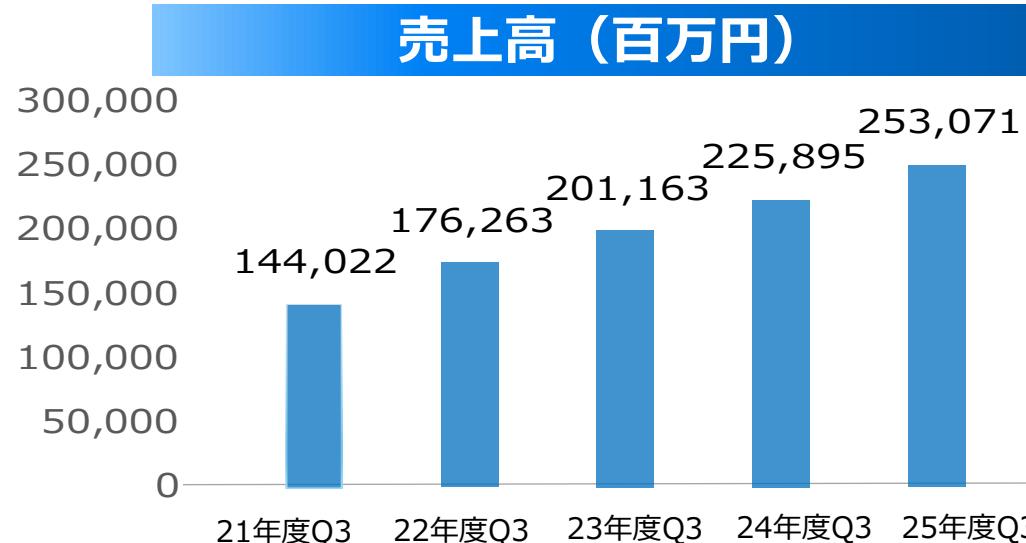
通期業績予想(売上高、営業利益、経常利益、純利益)を11月13日公表値から更に上方修正
期末配当予想を1円増額し、年間44円、配当性向30.1%に。22期連続増配予定

連結業績の推移



2025年度の通期予想 売上高3,405億円 営業利益405億円に上方修正

	23年度 Q1-Q3	24年度 Q1-Q3	25年度 Q1-Q3	通期予想
売上高 (百万円)	201,163	225,895	253,071	340,500
営業利益 (百万円)	35,262	31,960	33,575	40,500
営業利益率	17.5%	14.1%	13.3%	11.9%
EBITDA (百万円)	41,567	40,537	46,285	57,800
EBITDAマージン	20.7%	17.9%	18.3%	17.0%



(百万円)	2025年度 Q1-Q3			2025年度 Q3のみ			2024年度	
	金額	売上比	対前年(%)	金額	売上比	対前年(%)	Q1-Q3 金額	Q3のみ 金額
売上高	253,071	100.0	12.0	88,814	100.0	2.3	225,895	86,812
売上総利益	142,317	56.2	10.5	51,134	57.6	1.7	128,768	50,260
販管費	108,742	43.0	12.3	36,877	41.5	2.2	96,808	36,091
販促費	15,284	6.0	19.8	5,560	6.3	14.6	12,758	4,852
広告費	27,889	11.0	0.7	9,413	10.6	▲2.9	27,706	9,697
研究開発費	9,789	3.9	▲16.1	3,100	3.5	▲13.1	11,673	3,566
その他	55,778	22.0	24.9	18,803	21.2	4.6	44,669	17,975
営業利益	33,575	13.3	5.1	14,257	16.1	0.6	31,960	14,169
経常利益	39,852	15.7	20.5	15,243	17.2	5.2	33,076	14,485
親会社株主に帰属する 当期純利益	28,279	11.2	14.3	10,626	12.0	▲10.1	24,744	11,823
EBITDA	46,285	18.3	14.2	18,889	21.3	3.2	40,537	18,301

- ・全地域で增收達成により大幅增收
- ・為替レート：
USドル148.00円（前期152.11円）△2.7%
中国元20.51円（前期20.97円）△2.2%
- ・為替の影響：
売上△22億円、営業利益△0.5億円の影響
- ・EYS：
のれん償却11.7億円
商標権/その他無形固定資産の償却費6.7億円
- ・原価率：0.8ポイント上昇
(天藤製薬、クオリテックファーマ（QTP）、
インドネシア、英国の影響大)
- ・EYS、モノ社取得による減価償却費増と
人件費増により販管費が増加
- ・受取配当金の計上により営業外収益増加

2桁大幅增收

原価率の上昇に加え販管費が増加したものの、大幅增收により営業利益が増益

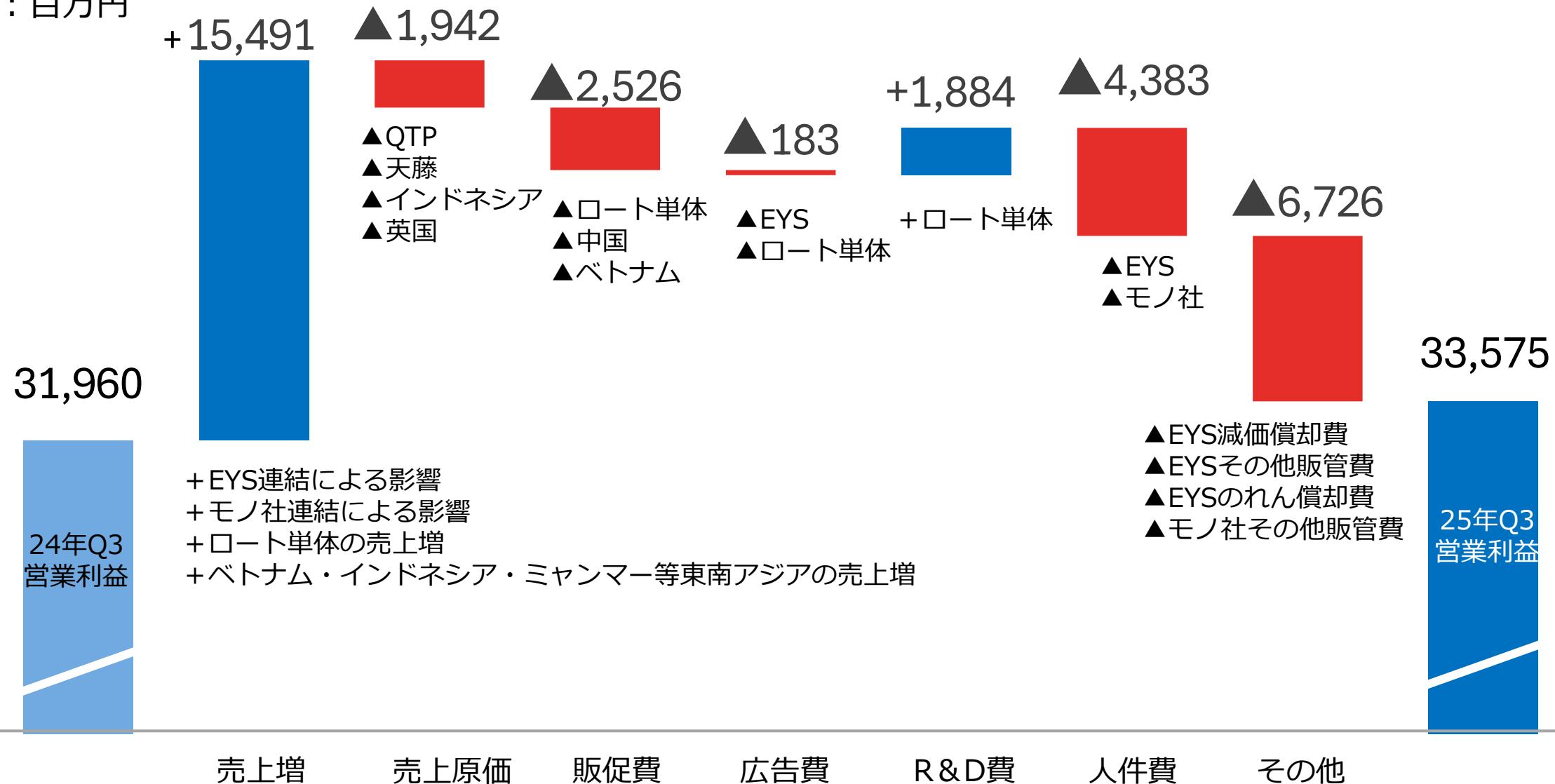
売上・営業利益共に計画を上回る進捗

営業外収益の増加により経常利益、当期純利益ともに大幅増益

営業利益増減の要因 (前年同期比較)



単位：百万円



セグメント別売上マトリックス（修正前予想使用）



	日本		セグメント別売上マトリックス（修正前予想使用）												合計	
			アジア		アメリカ		ヨーロッパ		その他		海外計					
	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率
アイケア	17,518	4.2	12,083	12.7	2,235	7.3	357	224.4	99	-	14,775	14.4	32,294	8.7		
スキンケア	70,089	1.0	51,359	8.2	9,846	5.4	12,374	4.8	2,282	3.0	75,863	7.1	145,952	4.1		
内服・食品	17,422	▲4.2	23,039	223.7	21	6.7	77	▲7.7	205	▲37.5	23,344	209.2	40,766	58.4		
メディカル	20,034	▲0.9	2,924	88.0	2,989	▲3.0	1,827	267.6	0	-	7,741	50.8	27,775	9.5		
その他	1,612	▲2.9	1,680	▲1.1	460	▲25.7	2,528	177.3	0	-	4,669	44.5	6,281	28.4		
合計	126,677	0.3	91,087	32.9	15,554	2.7	17,165	28.0	2,587	1.7	126,394	26.8	253,071	12.0		
修正前通期予想	171,200	3.8	119,700	19.3	20,500	▲1.3	23,800	24.2	3,300	▲2.0	167,300	16.5	338,500	9.7		
進捗率(%)	74.0		76.1		75.9		72.1		78.4		75.5		74.8			

【日本】

- ・アイケア増収：コンタクト用剤や若者用目薬が増収
- ・スキンケア増収：リップクリーム、Gyutto、肌ラボが増収
- ・内服・食品減収：ロートV5は二桁増収
エピステームドリンクの減収
- ・メディカル減収：ロートニッテン、天藤製薬が増収、QTP減収

【アジア】

- ・アイケア増収：ミャンマー・ベトナム・インドネシアの増収
- ・スキンケア増収：インドネシア・ミャンマー・台湾・中国の増収
- ・内服・食品増収：EYS連結効果
- ・メディカル増収：EYS連結効果

【アメリカ】

- ・アイケア増収：目薬が増収
- ・スキンケア増収：ハイドロックス社の増収
- ・メディカル減収：ハイドロックス社の医療機関向の減収
同社全体では増収

【ヨーロッパ】

- ・アイケア増収：中東向製品の増収
- ・スキンケア増収：Hadalabo Tokyo等好調なDAX社増収
- ・メディカル増収：モノ社の連結効果
- ・その他増収：モノ社の連結効果

セグメント別営業利益（修正前予想使用）



(百万円)	2025年度 Q3	構成比 (%)	前期比 (%)	予算	進捗率 (%)	2024年度 Q3	構成比 (%)
日本	17,963	53.5	▲2.8	22,300	80.6	18,483	57.8
アジア	13,283	39.6	26.3	13,300	99.9	10,513	32.9
アメリカ	1,017	3.0	▲6.2	1,400	72.7	1,084	3.4
ヨーロッパ	579	1.7	▲40.4	1,400	41.4	971	3.0
その他	226	0.7	7.7	300	75.5	210	0.7
調整額	505	1.5	▲27.4	800	63.2	696	2.2
合計	33,575	100.0	5.1	39,500	85.0	31,960	100.0

売上高：1,266億77百万円
営業利益：179億63百万円

前期比 +0.3%
同 ▲2.8%

売上高1,266.77億円：計画未達

- コンタクト用剤、若者用目薬などアイケア好調
- サプリメントの「ロートV5」、リップクリーム、前期新発売のヘアマスク「Gyutto」、「肌ラボ」、日やけ止め、胃腸薬等が好調に推移
- インバウンド需要過去最高を更新
- ロート単体だけでなく、ロートニッテン、天藤製薬も増収に寄与
- ロート単体：1桁前半%増収、QTP：1桁後半%減収、ロートニッテン：1桁後半%増収、天藤製薬：1桁後半%増収

営業利益：179.63億円：計画を上回る進捗

- ロート単体の原価率はほぼ横ばい、QTP、ロートニッテン、天藤製薬など子会社の原価率が上昇
- ロート単体：増益、QTP・ロートニッテン・天藤製薬：減益



新発売のロートV5 目×睡眠Wケアも人気
「第12回健康医療アワード」受賞



新色も大人気のプランパリップ



「Gyutto」数々の賞を受賞！
大人のクセ髪トリートメント
10



肌質や好みの使用感で「肌ラボ」を選べる事をPR

売上高：910億87百万円
営業利益：132億83百万円

前期比 +32.9%
同 +26.3%

売上高910.87億円：計画を上回る進捗

- ベトナム、インドネシアなど東南アジアが好調を持続
- 2Qよりミャンマーで輸入ライセンスを取得できた事で生産が可能となり増収に貢献
- 香港、中国の市況は依然として低調なもの、現地通貨ベースで香港・中国で増収を確保
- EYSが連結効果で売上に寄与するもシンガポール・香港市場減速の影響を受ける
EYS売上：現地通貨ベース対前1桁半ば%減収、計画未達
- 「肌ラボ」、「アクネス」、フケ抑制シャンプー「セルサン」、目薬等が好調に推移

営業利益132.83億円：計画を上回る進捗

- EYSのれん償却（11.7億円）、商標権/その他無形固定資産の償却費（6.7億円）
EYS営業利益（のれん償却前）：現地通貨ベース対前1桁後半%減益、計画未達
- ミャンマー、香港、中国の増収が寄与して計画を上回る増益

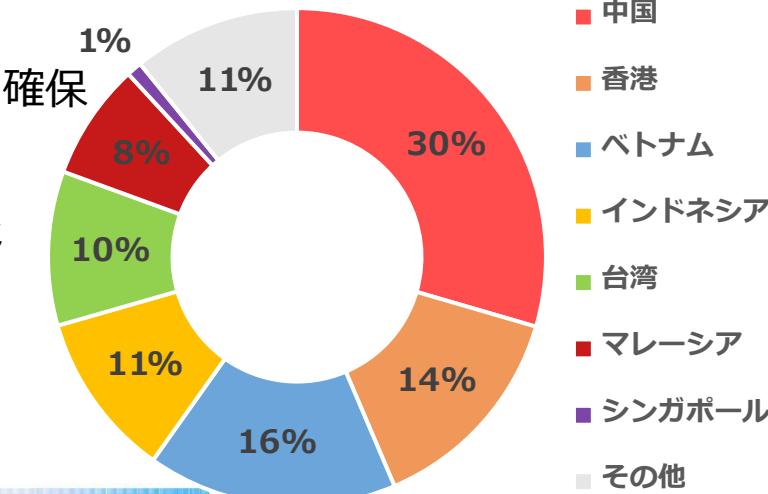


ベトナムでは
「肌ラボ」発売15周年キャンペーン
を行い新規ユーザーの獲得に成功



ミャンマーでは目薬やアクネスの輸入・販売が再開された
事を受け、SNS等で「Back Stock」と既存ファンへの情報発信
に注力

アジアの国別売上構成比 (EYS除く)



中国ではセルサンプロラインを発売
国営メディア「新華社」と提携し、製品の信頼性を高めた

売上高：155億54百万円 前期比 +2.7%
 営業利益：10億17百万円 同 ▲6.2%

売上高155.54億円：計画を上回る進捗

- 為替の影響 ▲6.2億円
- 目薬が好調に推移
- 医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス社が好調を継続
- ブラジルのオフサルモス社の眼科向製品やメンソレータムブラジルも「肌ラボ」等スキンケアが好調で増収に寄与
- ハイドロックス社：2桁%増収、オフサルモス社：2桁%増収、メンソレータムブラジル：2桁%増収（現地通貨ベース）

営業利益10.17億円：計画を上回る進捗

- 為替の影響 ▲0.7億円
- 販売費及び一般管理費の増加により減益に
- ハイドロックス社減益、オフサルモス社増益



ハイドロックス社の医療機関向消毒剤



「肌ラボ」はブラジルオンラインストア「Mercado Livre」に公式ストアを開設し販路を拡大中

売上高： 171億65百万円
営業利益： 5億79百万円

前期比 +28.0%
同 ▲40.4%

売上高171.65億円：計画未達

- 「Perfecta」や販売国を拡大した「Hadalabo Tokyo」が好調なDAX社が引き続き好調に推移
- 「ロートドライエイド」ブランドが順調に推移
- モノ社が連結効果で増収に寄与
- DAX社： 2桁%増収 (現地通貨ベース)

営業利益5.79億円：計画を上回る進捗

- 英国において消炎鎮痛剤の容器供給業者の倒産による生産量低下と代替業者の単価上昇により原価率が上昇し減益
- DAX社： 2桁%増益 (現地通貨ベース)



「ロートドライエイド」が順調に推移



「Hadalabo Tokyo」は英国やポーランドに加えて当期はデンマーク、ベルギー、オランダ、フィンランド、ノルウェーでも上市し46か国にトルコ小売大手Gratisとの販売促進や、スペイン、南アフリカでの展開など新規市場の伸びが成長ドライバーに

2026年3月期
業績予想
(2025年4月～2026年3月)



業績見通しのポイント



- 市場環境は国内外ともに改善の動きが見られたものの、インフレによるコスト上昇や消費者の支出抑制、地政学要因に伴う不確実性など、依然として先行きが読みづらい状況が続くと想定
- 2026年3月期も売上は過去最高を更新
- 為替の影響があるものの増益を確保する予定
- 第3四半期のアジア、アメリカが想定を上回り好調に推移したことを連結業績予想に反映させ、**連結業績予想を上方修正**
売上、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表を上回る
- 日本
 - ✓インバウンド需要は不確実であるものの国内消費は手堅く推移と見込む
 - ✓コア事業が引き続き成長予定
 - ✓第3四半期が想定を下回ったため売上下方修正、営業利益は上方修正
- 海外
 - ✓円安の進行
 - ✓中国、香港市場が増収に転じる
 - ✓ベトナム・インドネシア等東南アジアが引き続き成長を牽引予定
 - ✓全ての地域の売上を上方修正、営業利益はアジア、アメリカを上方修正
- 期末配当を**1円増配**し22期連続増配予定、**配当性向30.1%**を予定

業績見通し（上方修正）



- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は過去最高を更新予定
- 売上高：+20億円、営業利益：+10億円、経常利益：+25億円、純利益：+10億円を上乗せ
- 為替予想の修正：1ドル148円から150円へ修正、1元20円から20.82円へ修正
- 為替の影響（対前年）：売上△26億円、営業利益△3億円
- 為替の影響（対11/13公表値）：売上+35億円、営業利益+4億円
- EBITDAマージン 17.0%予定

(百万円)	2025年度通期予想				2025年度		2024年度
	修正予想 (B)	構成比	対前年 (%)	増減額 (B-A)	11/13公表値 (A)	対前年 (%)	実績
売上高	340,500	100.0	10.3	2,000	338,500	9.7	308,625
営業利益	40,500	11.9	5.9	1,000	39,500	3.3	38,234
経常利益	46,500	13.7	17.1	2,500	44,000	10.8	39,725
親会社株主に帰属する 当期純利益	33,000	9.7	7.0	1,000	32,000	3.8	30,841
為替（ドル/円）	150.00				148.00	152.61	
為替（元/円）	20.82				20.00	21.02	

※前期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、対前年（%）は、2025年度Q1において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した遡及修正後の数値で算出

セグメント別売上予想（修正）



- 日本は子会社の不調や暖冬の影響等を受けるもののコア事業は引き続き堅調に推移予定 △16億円
- 為替の影響（対前年）：アジア△24億円、アメリカ△5億円、ヨーロッパ+4億円、その他△1億円
- 為替の影響（対11/13公表値）：アジア+24億円、アメリカ+5億円、ヨーロッパ+4億円、その他+1億円
- アジアはEYS下方修正だが、中国が回復基調とミャンマーをはじめ東南アジアが好調+25億円

(百万円)	2025年度通期予想				11/13公表値 (A)	2025年度		2024年度
	修正予想 (B)	構成比	対前年 (%)	増減額 (B-A)		対前年 (%)	実績	
売上高	340,500	100.0	10.3	2,000	338,500	9.7	308,625	
日本	169,600	49.8	2.8	▲1,600	171,200	3.8	164,988	
アジア	122,200	35.9	21.8	2,500	119,700	19.3	100,336	
アメリカ	21,200	6.2	2.1	700	20,500	▲1.3	20,769	
ヨーロッパ	24,000	7.0	25.2	200	23,800	24.2	19,163	
その他	3,500	1.0	4.0	200	3,300	▲2.0	3,366	
為替（ドル/円）	150.00				148.00		152.61	
為替（元/円）	20.82				20.00		21.02	

セグメント別営業利益予想（修正）



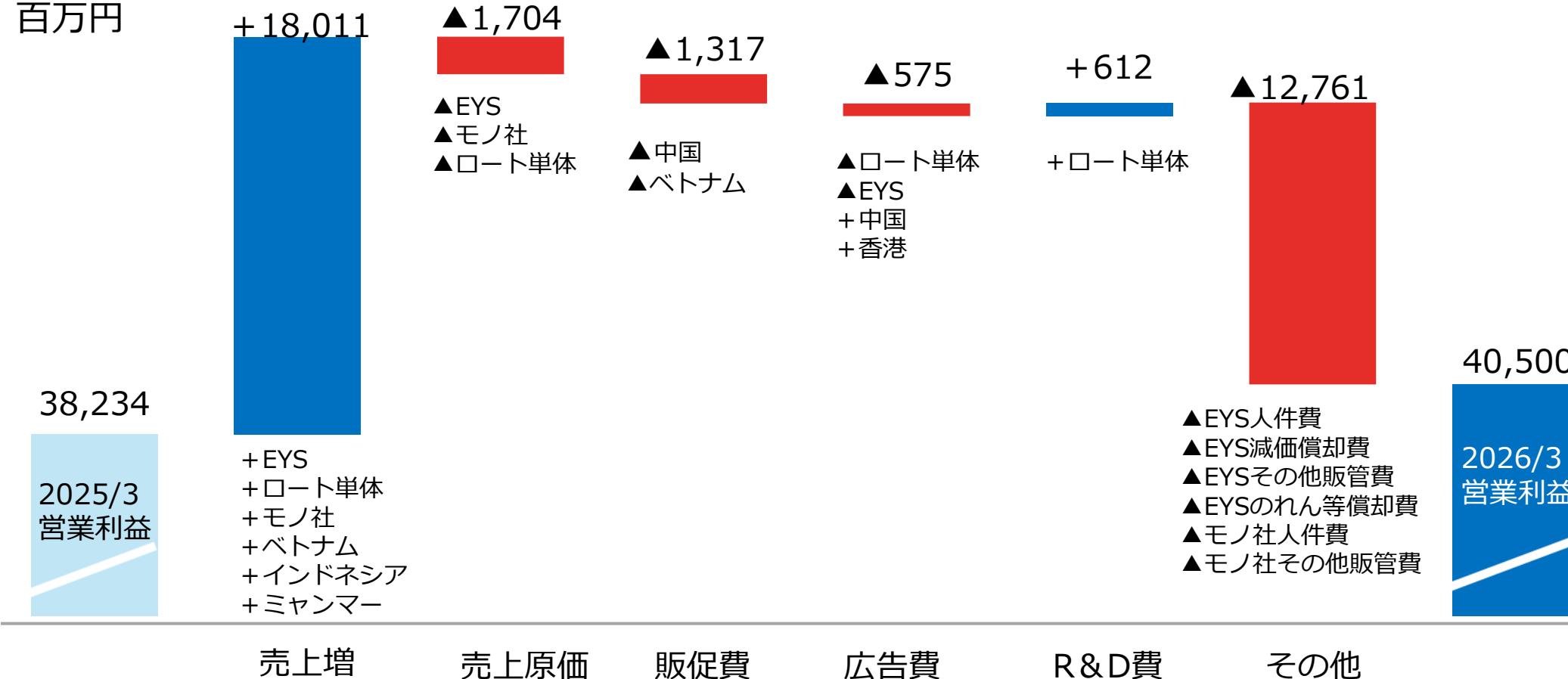
- 日本は子会社が貢献 + 2億円
- 為替の影響（対前年）：アジア△4億円、アメリカ△0億円、ヨーロッパ+0億円、その他△0億円
- 為替の影響（対11/13公表値）：アジア+3億円、アメリカ△0億円、ヨーロッパ+0億円、その他+0億円
- アジアはミャンマーをはじめ東南アジアが好調なため +9億円
- アメリカはハイドロックス社及びブラジルが貢献 + 2億円
- ヨーロッパは英国で消炎鎮痛剤の仕入れ先変更の影響による原価率の悪化のため △3億円

(百万円)	2025年度通期予想				2025年度		2024年度
	修正予想 (B)	構成比	対前年 (%)	増減額 (B-A)	11/13公表値 (A)	対前年 (%)	実績
営業利益	40,500	100.0	5.9	1,000	39,500	3.3	38,234
日本	22,500	55.6	0.2	200	22,300	▲0.7	22,453
アジア	14,200	35.1	22.5	900	13,300	14.7	11,595
アメリカ	1,600	4.0	3.7	200	1,400	▲9.2	1,542
ヨーロッパ	1,100	2.7	▲22.2	▲300	1,400	▲1.0	1,414
その他	300	0.7	▲15.3	0	300	▲15.3	354
調整額	800	2.0	▲8.5	0	800	▲8.5	874
為替（ドル/円）	150.00				148.00	152.61	
為替（元/円）	20.82				20.00	21.02	

2025年度 営業利益増減の要因見通し



単位：百万円



※前期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、対前年(%)は、2025年度Q1において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した 遷及修正後の数値で算出

ロートサイエンスを進化させ、セルフケアのコア事業の収益最大化 プロフェッショナルケアへの基盤を構築し、Well-beingの輪を広げる

コア事業

コア事業のグローバル展開
新分野への拡大



コア事業である
アイケア、スキンケアでの
確実な成長と収益の確保、
ヘアケアなどの新分野の確立

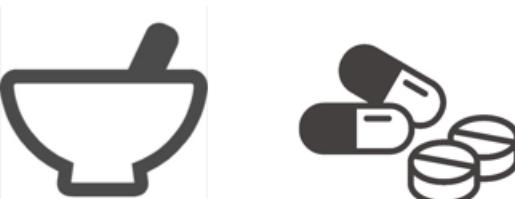


成長事業

技術商品力の
深化と拡充



フィトサイエンス素材を用いた
内服・食品事業での
売上・収益の成長拡大



未来への投資

メディカル事業の
基盤構築



10年先の当社の事業を
けん引するメディカル領域
(眼科、皮膚科、整形・運動)
の基盤構築



* フィトサイエンスとはロート製薬が提唱する、自然界の力を科学的に解明し、社会に貢献する新たな事業戦略です。特に、自然素材の活性や機能（フィトパワー）に着目し、地域資源や技術を活用して、持続可能な社会づくりを目指しています。

- 2026年1月7日 タイを拠点とするウェルネス関連企業Thann Oryza Co.,Ltd.の株式取得契約を締結
- 目的：「THANN」のブランド資産を活かしグローバル市場での新たな成長機会の創出と持続的成長に繋げる
- 事業内容：小売事業（海外輸出、Web販売含）、スパ事業、ホテル事業（フィットネス及びウェルネスサービス含）
- 株式譲渡実行日：2026年3月31日（予定）損益の連結は2027年3月期より開始
- のれんの影響：連結業績に与える影響は軽微
- 「THANN」ブランドとは：

THANNブランドは2002年にタイで誕生したナチュラルスキンケア＆ライフスタイルブランド。植物由来成分とアロマテラピーの知見を活かしたフレグランス、スキンケア、ヘアケア、バス＆ボディ等の製品開発と、洗練されたブランド世界観が特徴。タイ国内で自社直営店舗を運営、海外は代理店が運営するブランドショップを通じて、中国、香港、日本、モンゴルなどを中心に世界14カ国で事業を展開中。

スパ・ウェルネス事業ではタイ、香港、日本で16店舗のスパ施設を運営。タイ・アユタヤ地区に「THANN Wellness Destination」を展開する、アジア地域でプレミアムスパおよびウェルネス分野を代表する企業の一つ。



ナチュラル＆ボタニカル
成分を配合した化粧品



自社店舗外観

□ 2026年の日やけ止め市場を牽引



「スキンアクア®トーンアップUV」
新色ホワイト&全色ぬりたてのカワイイが続く
新処方にリニューアル

発売日:2026/2/2

□ 「メラノCC」から高付加価値シリーズ誕生



発売日:2026/2/2 EC先行発売
2026/3/9 全国発売

高付加価値「メラノCC+（プラス）」シリーズ第一弾の
フェイスマスク「メラノCC+ AZmask」
ピュアビタミンC×ピュアアゼライン酸配合で毛穴悩みにアプローチ

□ 「オバジCセラム」シリーズリニューアル



隙のない発光素肌へ導く 直送美容液へ進化
山田涼介さんがオバジ 25thスペシャルメッセンジャーに就任し、
発売前から話題に

発売日:2026/2/10

□ ケアセラからもマスク新発売



発売日:2026/1/19 EC先行発売
2026/8月 全国発売

「ケアセラ AP 高保湿クリームラップマスク」

□百貨店ブランド「エピステーム」



「エピステーム ニュートラルクリアセラム」

発売日:2026/3/1

□EYS製品の日本での販売開始



発売日:2026/3

第一弾 冬虫夏草サプリメント「余仁生（ユーヤンサン） 冬虫夏草」
オンラインサイトで発売開始

□「肌ラボ」全品、メラノ洗顔マークアップ[®]

発売日:2026/2/2

「肌ラボ 濃極潤」シリーズ全品リニューアル

2026年4月出荷分より「肌ラボ」全品、「メラノCCディープクリア酵素洗顔」を現行より+10%程度（出荷価格ベース）値上げ

□「ロートジー」と『NARUTO-ナルト- 疾風伝』のコラボ



発売日:2026/1/29

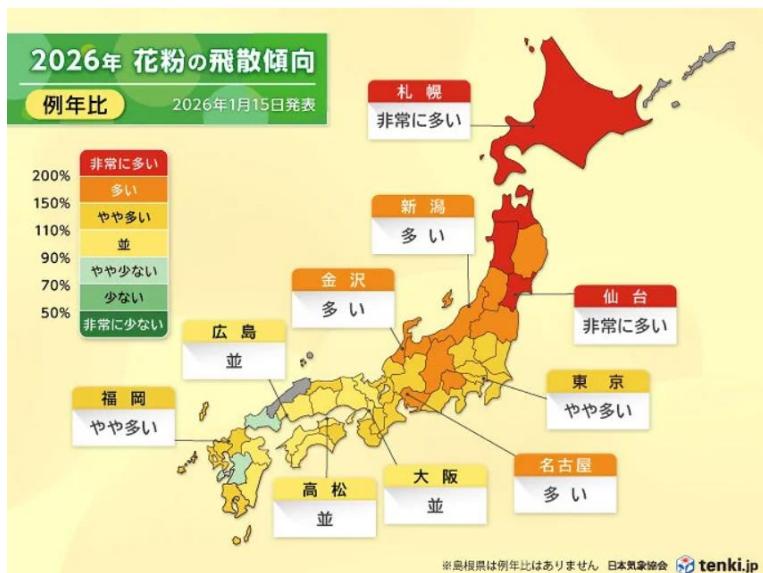
幅広い世代・国で支持される大人気TVアニメ『NARUTO-ナルト- 疾風伝』とコラボした爽快系目薬「ロートジー」を数量限定で発売

□アルガードブランドから医療用と同成分「エピナスチン塩酸塩」配合の新アレルギー用目薬
「ロートアルガードエピナスチン点眼薬」を3月新発売

- 花粉が飛散する1～2週間前からの使用、症状が軽い早めの時期からの使用が効果的
- 1歳から使用可能
- 要指導医薬品
- 5mL×2本、1,800円（税抜）



□2026年花粉飛散予測



- 西日本では例年並み、東日本と北日本では例年より多い見込み
 昨年と比較すると、西日本では広い範囲で減少、東日本と北日本は多く、非常に多い所もある見込み
- 2026年シーズン見込は例年並み

□ヒューマンライフコードから治験製品製造を受託

ヒューマンライフコード（株）が開発を進める臍帯由来間葉系間質細胞「HLC-001」の第Ⅲ相臨床試験に向けて、当社が治験製品製造を受託

□（株）レイメイとの再生医療領域における実用化に向けた連携を強化

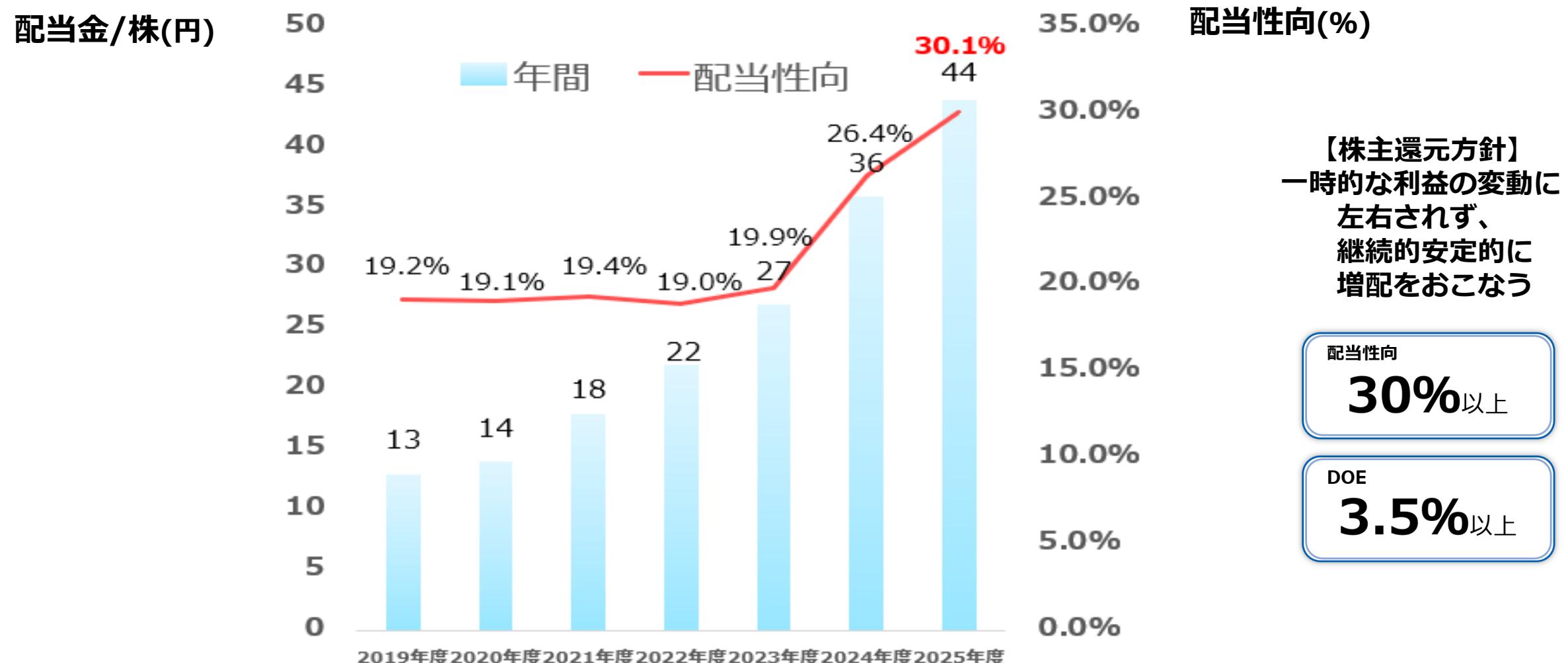
□レイメイ社とは：大阪大学大学院医学系研究科眼科学の西田幸二教授の研究分野であるiPS細胞等を用いた研究成果を実用化する事業を手掛ける会社。iPS細胞由来角膜再生医療の臨床研究で、2026年1月企業治験を開始

□連携内容：レイメイ社への出資を通じた研究開発のサポートを行い、実用化の段階における角膜上皮シートの製造受託、及び販売に向けて検討中

株主還元（期末配当を1円増配予定）



中間配当21円、期末配当23円 年間44円、配当性向30.1%に増配予定





Appendix

各国の売上高成長率（現地通貨ベース）



2024年（前年比）

2025年（前年比）

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q
ロート単体	+10%台前半	+1桁前半	+1桁後半	▲1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	+1桁半ば	▲1桁半ば
中国	+1桁半ば	▲1桁半ば	▲1桁前半	▲1桁後半	▲1桁半ば	▲1桁前半	+1桁前半	+1桁半ば
香港	+1桁前半	▲10%台前半	▲1桁半ば	▲1桁前半	▲1桁半ば	+1桁前半	+1桁半ば	▲1桁前半
台湾	+1桁半ば	+1桁後半	+1桁半ば	+1桁後半	+1桁半ば	+10%台前半	+1桁前半	+1桁半ば
ベトナム	+1桁後半	+20%台前半	+20%台前半	▲1桁前半	+10%台前半	+10%台前半	+10%台前半	+10%台半ば
インドネシア	+30%台半ば	+1桁後半	+10%台半ば	+10%台後半	+10%台後半	+30%台半ば	+20%台半ば	+1桁半ば

2025年第3四半期 国内主要ブランド別売上



ドラッグストア基礎化粧品ブランドNo. 1 ※



前期比: +3.3%
構成比: 13.8%



前期比: ▲16.4%
構成比: 5.0%

9/10 「オバジX バイタライズ リフトクリーム」リニューアル



リップクリーム



前期比: +7.6%
構成比: 8.0%



日やけ止め



前期比: +10.6%
構成比: 7.3%



前期比: ▲10.0%
構成比: 10.8%



前期比: +1.9%
構成比: 4.1%



※前期比: 売上の増減率 (2025年度Q1-Q3 vs 2024年度Q1-Q3)

※構成比: ロート単体に占める各ブランドの売上比

目薬

前期比: +14.9%

構成比: 13.4%



男性化粧品
Men^{tholatum} 曼秀雷敦男士



前期比: ▲6.7%

構成比: 4.5%



前期比: +34.4%
構成比: 12.5%



日やけ止め

前期比: ▲14.7%
構成比: 7.8%



前期比: +19.4%
構成比: 5.3%



Mentholatum[®]
Acnes



前期比: ▲1.1%

構成比: 8.7%



50 MEGUMI



前期比: +5.9%
構成比: 3.1%

■医療用点眼薬

開発コード	対象疾患	予定地域	開発段階
ROH-101	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	日本	P3
ROH-201	ドライアイ	日本	P2
ROH-201	春季力タル	日本	P2
ROH-202	眼科用治療剤	日本	P1
ROH-001	近視進行抑制	日本	P2

■再生医療等製品

細胞種	開発コード	対象疾患	予定地域	開発段階
ヒト脂肪由来幹細胞	ADR-001	肝硬変	日本	P2
	ADR-002K	重症心不全	日本	P2
	ADR-001	腎疾患	日本	P1
	ADR-001	重症下肢虚血	日本	P1
	ADR-001	肺線維症	日本	P2
ヒト臍帯由来幹細胞	UDI-001	神経変性疾患	日本	P1
軟骨細胞キット	CCI	外傷性軟骨欠損	日本	P2
	TLC-01	変形性膝関節症	日本	P2

広告・研究開発・資本的支出・減価償却費の推移



広告費・研究開発費

	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期	± 増減額
広告費	26,128	27,706	27,889	182
売上比	13.0%	12.3%	11.0%	-
研究開発費	8,420	11,729	9,879	△ 1,849
売上比	4.2%	5.2%	3.9%	-

	2023年度	2024年度	2025年度予想
	37,977	39,224	39,800
	14.0%	12.7%	11.7%
	13,461	14,995	14,300
	5.0%	4.9%	4.2%

資本的支出・減価償却費・のれん償却費

	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期	± 増減額
資本的支出	7,057	8,879	24,177	15,298
減価償却費	6,009	7,897	11,190	3,292
のれん償却額	295	679	1,519	839

	2023年度	2024年度	2025年度予想
	10,100	15,070	30,900
	8,251	12,096	15,300
	436	1,205	2,000

※資本的支出は、有形固定資産及び無形固定資産の合計額
 ※減価償却費はのれん償却額を除く
 ※オバジ商標取得の影響を含む

為替レートの推移



為替 (USドル/円)

	2023年12月期 実績	2024年12月期 実績	2025年12月期 実績	増減額	増減率(%)
期 中 平 均 レ ー ト	142.16	152.11	148.00	-4.11	△ 2.70
期 末 レ ー ト	147.07	150.74	156.63	5.89	3.91

	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
	143.31	152.61	150.00
	150.67	149.67	-

為替 (中国元/円)

	2023年12月期 実績	2024年12月期 実績	2025年12月期 実績	増減額	増減率(%)
期 中 平 均 レ ー ト	19.61	20.97	20.51	-0.46	△ 2.19
期 末 レ ー ト	20.46	20.46	20.88	0.42	2.05

	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
	19.82	21.02	20.82
	19.93	21.67	-

- 本資料は、投資判断の参考として、弊社の現状を理解して頂くために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、作成時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料には、医薬品等（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 投資を行う際は、ご自身の判断において行っていただきますようお願ひいたします。
- 本資料を利用することにより生じた、いかなるトラブルおよび損失、損害に対して、弊社は一切責任を負いません。

